

ほのか診察室



シリーズ

第133話

痛みをもつ患者さんの つらさを和らげたい



市民病院
4階病棟 看護師
山田 真希
がん性疼痛看護
認定看護師

はじめに

がん性疼痛看護認定看護師は、がんの痛みを抱える方の苦痛を緩和するために、痛みの治療（鎮痛薬の使い方や副作用対策など）やそれに伴う心のつらさなどの相談を受け、医師、看護師、薬剤師などと相談しながら、適切な薬剤の使い方を考える役割を担っています。

がんによる痛み

がん患者さんにとって「痛み」はとても深刻な問題の一つです。がんによる痛みは、がんが診断される前から見られることが多く、がん患者さんの約70%が経験すると言われています。

がんによる痛みは、不眠や食欲低下、体重減少、疲労感などの身体的な苦痛だけでなく、不安や怒り、悲しみ、恐怖、気力の低下など精神的な苦痛にも繋がります。また、家庭や職場など社会的な役割にも影響を及ぼす場合もあります。

このように「体のつらさ」と「心のつらさ」があることで、自分らしく生活していきたくと思っても、苦痛により自分らしく過ごせないというつらさが生じてしまいます。

どうしてがんは痛いのでしょうか？

痛みには、がんによるもの、

がん治療によるもの、これらとは無関係な痛みが存在します。痛みの特徴や鎮痛薬の効果は原因部位によって異なります。そのまま放置すると、鎮痛薬の効きにくい非常に強い痛みに変化すると言われています。そのため、的確なアセスメント（評価）が迅速かつ適切な痛みの治療に繋がります。

がん性疼痛看護認定看護師の役割

患者さんの痛みについて知るために、問診では次の八つの質問をします。

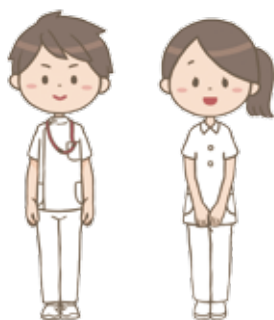
- ① 痛みの部位の経過
- ② 痛みの性質
- ③ 痛みのパターン
- ④ 痛みの強さ
- ⑤ 現在行っている治療の反応
- ⑥ 痛みの増悪因子、軽快因子
- ⑦ 日常生活への影響
- ⑧ 痛みの意味

痛みは麻薬などの鎮痛薬を適切に使用することで、コントロールができると言われており、問診での回答をもとに、それぞれの患者さんに合った鎮痛薬を考えます。しかし、医療用麻薬であっても、「麻薬」という言葉に抵抗を感じたり、「依存しておかしくなったらどうしよう」

問 市民病院（代表） 022-2171

「中毒になってしまおう」といった不安を感じたりする方も多くいらつしやると思います。

私たちは、そういった不安を軽減し、痛みと上手につき合っていくけるように一人一人に合った方法を探しながら闘病を支えていけるよう支援します。



【看護相談外来開設】

市民病院は、平成31年1月に看護相談外来を開設しました。

患者さん、その家族の方のさまざまな悩みや困りごとを専門的資格や知識、技術を持った認定看護師などが相談に乗ります。お気軽にご相談ください。